

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)柏の葉キャンパス新技術センター計画B棟 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										4.0
Q1 室内環境							0.40	-	-	4.1
1 音環境						4.4	0.15	-	-	4.4
1.1 室内騒音レベル		NC-40				4.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2				5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		Dr=50				5.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:ロックウール化粧吸音板				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.6	0.35	-	-	3.6
2.1 室温制御						4.2	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		[窓]SC=0.46、U=1.95W/m ² K、[外壁]U=0.97W/m ² K				5.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		細かなゾーニングがなされており、空調はゾーンごとに冷暖選択可				5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						4.7	0.25	-	-	4.7
3.1 昼光利用						4.6	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率:U=2.7%				5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口							-	3.0	-	
3 昼光利用設備		トップライトの採用				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						5.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		電動ブラインドによりグレアを制御している				5.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		照度:500lx				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		1作業単位で照度センサによる自動照明制御が可能				5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用している				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量		中央管理方式の空調設備が設置されている。換気量:30m ³ /h人				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		給気は排気と同じ方位で6m以上の位置にある。				4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 監視が中央で常時行われており、管理マニュアルも整備されている。				5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	4.2
1 機能性						4.1	0.40	-	-	4.1
1.1 機能性・使いやすさ						3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		将来的に複数キャリアを引き込める空配管を設置している				4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている				4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:3.0m				5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上、かつ自販機の設置				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		パースによる内装の事前検証を実施している				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		トイレの壁・床には防汚性の高い材料を使用している				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用倉庫に洗い場を設置し、排水設備への経路を確保している				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.5	0.30	-	-	4.5
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%増の耐震性				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震装置を採用し建物全体で内部設備保護が図られている				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット(20年)				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気にSUSやガルバリウム鋼板を採用				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		空調配管:配管用炭素鋼鋼管(白)・・・D				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						5.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		重要度に応じた系統区分、災害時の優先運転・電源供給				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		過半以上にグリーン購入法適合品と同等の節水器具を採用				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機の設置				5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:S以上				5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		ネットワーク機器用の無停電装置の設置				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.5m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.22	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-	
事務室:4900N/㎡							
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
敷地周辺の生物環境の立地特性の把握・計画方針の設定							
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
周辺へのまちなみ調和に配慮した景観計画							
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50	-	-	
室外機はGL+10m以上の位置に設置している							
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.4	0.20	-	-	4.4
BPI=0.86							
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
トップライトの採用							
3 設備システムの高効率化			2.9	0.50	-	-	2.9
[BEI][BEIm]= 0.81							
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な設備システムに関して4種類以上のシステム効率の評価が可能	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用管理体制を組織化し、エネルギー消費量の目標値を設定している	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			4.4	0.20	-	-	4.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水コマ、自動水栓に加えて省水型機器を過半数以上に採用している							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	20%以上の雨水利用を行っている	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水等の利用がある	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			5.0	0.10	-	-	
合成スラブデッキ、キャブリングパイル工法の採用							
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
電炉鋼(柱、大梁、小梁等)							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
ビニル系床材(倉庫等)、ボード類(外部軒天)、スラッジを用いた路盤材(路盤)							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
LGS工法、OAフロアの採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	
PRTR法に該当しないシーリング材を使用する計画としている							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム(ODP=0、DWP=3)	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
BEI=0.82							
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			1.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	指導された規模以上の雨水流出抑制対策を実施している	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場や駐車場を確保している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満足している	5.0	0.70	-	-	

	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	*	-	
--	---	------------------------	-----	------	---	---	--